

家より家老の事備ありて

秀忠公の

台聽より一七十五万石を与ふれ一百万石
て江州へ移さる奥州中村城にお馬大膳亮
が流 公義の命を以て南地へ下向せられ
赤尾津門田あり氏より南地を更ふ

言上元といふ所の末より元月二郡の代官赤
尾津中理といふ人の勅の附酒田の湊より
大船運より舟を山形の下へ江をいけ
まは言上強阿寺家親悦いといふ大室寺乃
城を築り是と改酒田の城を築く候と改め

られあ郡中七日に酒田を築く事を許さる

去る仕至私ありたりとや言ふ

諸君と祝ひ立てる元月にも中親殿されて

出羽にありふ

とあんなありたりとあり諸君と是を候の
名け附より始るとを羽原紀十と是に赤尾
津孫六郎中利大膳系信の酒田の湊より
長七人斗なる船よりたりとあり

一酒田所三十二人

元月お初詣録より三十二人の秀衛妹徳元